

今冬のインフルエンザ

予防接種

〜SARSとの関連〜

の有効性は明らかで、例えば施設に入所している高齢者においては、インフルエンザによる死亡を80%、入院や肺炎の発生を50〜60%、インフルエンザの発生を30〜40%防ぎ止めます。インフルエンザ予防接種によって『SARS疑い例』は確実に減るはずなのです。

化しやすいハイリスクの方と医療従事者は必ず、そうでない方も可能な限りインフルエンザ予防接種を受けるようにしましょう。

(医師会)

SARS (重症急性呼吸器症候群) によって引き起こされた世界的な緊急事態は、ひとまず終息を告げました。しかし、徐々に寒さの厳しくなる季節となつて、次の問題点へと注目が集まっています。

ウイルスによる呼吸器感染症は、気温と湿度が上昇したときに死に絶え、その後気候が涼しくなつて戻ってくる傾向があります。SARS流行後に初めて迎える今冬、インフルエンザとの同時流行が懸念されているのです。

●困難なSARSの診断

SARSとインフルエンザの初期症状は、医師でも区別することはできません。インフルエンザには診断キットがありますが、100%の精度ではありませんし、SARSには一般の診療で利用できるような診断キットもありません。

「38度以上の急な発熱および咳、呼吸困難等の呼吸器症状を示し、発症前10日以内にSARSの発生

が報告されている地域にいた者」

を『SARS疑い例』と診断するわけですが、もしもインフルエンザ流行期に国内でSARS患者が発生した場合には、膨大な数の「発熱と咳の患者」を『SARS疑い例』として対処しなければならなくなります。その場合の社会の混乱や経済的損失がどれほどのものか、想像もできません。

●『SARS疑い例』を減らす

このようなことから世界保健機構は、SARSと誤認される可能性の高いインフルエンザ患者の減少を図るために、インフルエンザの予防接種を勧めています。特にインフルエンザによって重症化するリスクの高い高齢者、慢性の心臓や肺疾患などを持っている患者、さらに患者を看護あるいは介護する医療従事者への接種を強く呼びかけています。

現在のインフルエンザ予防接種

●インフルエンザ予防接種を

先頃の世界的なSARS流行では、日本国内での患者の発生は奇跡的にもゼロでした。しかし、次の流行時も同様だという保証はありません。インフルエンザで重症



(医師会)